

講義概要

— 2022 —



山口学芸大学
Yamaguchi Gakugei University

目 次

(1) 教養科目

1 社会科学	7
2 人文科学	10
3 自然科学・情報	13
4 コミュニケーション	16
5 芸術文化	19
6 キャリア教育	22
7 体育	24

(2) 専門科目

1 学科目	28
2 子ども学	145
3 グローバル学	152
4 教育実習	156
5 保育実習	167
6 実践演習	173
7 ゼミナール	175

シラバスの見方

山口学芸大学

シラバス(講義概要):シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

授業科目名	①	教員名	⑤	免許・資格との関係	保育士	⑦	
ナンバリングコード	②				年次担当	⑥	幼稚園教諭
		小学校教諭	⑦				
中学校教諭(英語)	⑦						
高等学校教諭(英語)	⑦						
授業形態	③			卒業要件	特別支援学校教諭	⑦	
単位数	④				初等幼児教育専攻	⑧	
教科及び教職に関する科目	⑨教科及び教職に関する科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)						
各科目に含めることが必要な事項	⑨						
教科目	⑨必修科目・選択必修科目(保育士)						
系 列	⑨						
授業テーマ	⑩						
授業概要	⑪						
達成目標	⑫					科目 DP(ディプロマ・ポリシー):()	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
履修条件・注意事項	⑬						
授業計画	⑭						
アクティブ・ラーニング	⑮						
成績評価基準	⑯評価の方法: 評価の基準:						
フィードバックの方法	⑰						
時間外の学習について	⑱予習: 復習:						
教材にかかわる情報	⑲テキスト: 参考書: 参考資料等:						
担当者からのメッセージ等 実務経験について	⑳						

- ①授業科目名を記載しています。
- ②科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ③授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。
- ④単位数を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥履修年次と開講期間を記載しています。
- ⑦免許・資格を取得するために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許・資格を取得するために必要な科目について必要事項・科目区分・系列を記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫達成目標について記載しています。達成目標とディプロマ・ポリシーの関りについて記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
授業の実施方法を記載しています。①面接授業のみ②面接授業と遠隔授業等の併用 ③遠隔授業等のみ
- ⑭授業スケジュール(各回で扱う内容等)を記載しています。
- ⑮主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- ⑯成績の評価基準と評価方法を記載しています。
- ⑰課題等(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑲教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。
実務経験をいかした教育内容について記載しています。

教育課程ナンバリング・システムについて

教育課程ナンバリング・システムは、山口学芸大学で開講されている全ての授業科目(教養科目・学部専門科目・大学院専門科目)に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、ナンバリングコードとして示すことにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

ナンバリングコードは、「CM1-1001-211110」のように表記され、以下の①～④のとおり構成されています。

CM	1	-	1001	-	211110
①学部等領域コード	②学年水準コード		③科目区分識別コード		④免許・資格コード

①学部等領域コード	<p>科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。</p> <p>UM: 大学院教育学研究科 (University+Master) CM: 教育学部共通開設科目 (Common+Subject) UC: 初等幼児教育専攻開設科目 (University+Childhood) UL: 英語教育専攻開設科目 (University+Language)</p>
②学年水準コード	<p>科目の開講学年を示す1桁の数字で表しています。数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。</p> <p>1: 1年次開設科目 2: 2年次開設科目 3: 3年次開設科目 4: 4年時開設科目 5: 大学院1年次開設科目 6: 大学院2年次開設科目 7: その他</p>
③科目区分識別コード	<p>教育課程の科目区分(1桁)と授業科目の通し番号(3桁)で表しています。</p> <p>1: 教養科目 2: 学科目 3: 子ども学 4: グローバル学 5: 教育実習 6: 保育実習 7: 実践演習 8: ゼミナール 9: その他</p>
④免許・資格コード	<p>桁数で学校種等を示し、番号で必修・選択を表しています。</p> <p>【桁数】</p> <p>1桁目 保育士資格の専門科目 2桁目 幼稚園教諭免許の専門科目 3桁目 小学校教諭免許の専門科目 4桁目 中学校教諭免許の専門科目 5桁目 高等学校教諭免許の専門科目 6桁目 特別支援学校教諭免許の専門科目</p> <p>【番号】</p> <p>0: 免許・資格に関連なし 1: 必修科目 2: 選択科目</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>※表記例(日本国憲法の場合)</p> <p>保育士資格としては「選択科目」 → 1桁目は、2 幼稚園教諭免許としては「必修科目」 → 2桁目は、1 小学校教諭免許としては「必修科目」 → 3桁目は、1 中学校教諭免許としては「必修科目」 → 4桁目は、1 高等学校教諭免許としては「必修科目」 → 5桁目は、1 特別支援教諭免許としては「免許・資格に関係なし」 → 6桁目は、0 したがって、日本国憲法の免許・資格コードは、211110 と表記される。</p> </div>

I. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本学では、建学の精神「至誠」のもと、新しい社会の変革の中で、強い存在感を示す教育者・保育者の養成に向けて、以下に示す学修成果(学士力)を身につけ、かつ、所定の在学期間を満了し、基準となる単位を修得した者に対して卒業を認定し、学士(教育学)の学位を授与します。

(1) 知識理解と実践力

各学問分野における基本的な知識や幅広い教養を修得することで豊かな人間性や広い見識を身につけ、人間の成長・発達・学びについての専門的知見と技能をもって子どもを理解し、豊かな学びへ導く実践力を有している。

(2) 汎用的能力

論理的思考力、情報技術活用能力、表現力、コミュニケーション力などの諸能力をもち、多様性や柔軟性を備えて社会生活や職業生活に応用できる。

(3) 態度・志向性

教育者・保育者としての使命感と深い教育的愛情、生涯にわたって自ら学び続けようとする意志をもつとともに、地域社会において多様な人々と連携・協働し、地域コミュニティをつなごうとする態度と志向性を有している。

(4) 総合的な学修経験と創造的思考力

グローバルな視野をもって社会の事象や困難な課題、新しい課題に向き合い、大学での学びを総合的に活用して創造的に考え、取り組むことができる。

教育者・保育者として身につけるべき資質・能力(学修成果)

本学では、学生が卒業までに修得することが期待される資質・能力を「学修成果」として次のように示しています。

実践力	(1) 知識理解と	①豊かな人間性と広い見識	教育者・保育者の基盤となる基本的知識や幅広い教養を修得し、豊かな感性や高い倫理観、広い見識を身につけている。
		②教育・保育に関する専門的知識・技能と教育的実践力	人間の成長・発達・学びについての専門的知見や技能をもって子どもを理解し、教育的実践にいかすことができる。
(2) 汎用的能力		③専門職としての論理的思考力、情報技術活用能力	事象や課題について、文献や資料、ICT・数理データ等を活用し、多面的に分析・考察し、解決する意識と対応力をもつ。
		④教育・保育現場で求められる表現力・コミュニケーション力	積極的に他者と関わり、気持ちや考えを伝え合うとともに、喜びや感動を他者と共有することができる。
(3) 態度・志向性		⑤教育者・保育者としての使命感と教育的愛情	教育者・保育者としての責任と使命感を自覚して、生涯にわたって自ら学び続ける意志をもつとともに、子どもの人権と個性を尊重し、一人ひとりに寄り添って学びを支援することができる。
		⑥地域社会の一員としての自覚	地域社会において他者と連携・協働し、地域コミュニティをつなぎながら教育・保育・子育てに関わろうとする態度と志向性を持ち続けることができる。
と創造的思考力	(4) 総合的な学修経験	⑦グローバルな視野	グローバルな視野をもって社会の事象や諸課題に向き合い、解決に向けて取り組むことができる。
		⑧創造的思考力と実践力	大学での学びを総合的に活用して、子どもの豊かな学びの実現に向けて創造的に取り組むことができる。

教 養 科 目

1 社会科学	
日本国憲法	7
心理学	8
知的財産法入門	9
2 人文科学	
哲学	10
文学	11
郷土史	12
3 自然科学・情報	
情報処理	13
データ科学とプログラミング	14
暮らしのなかの科学	15
4 コミュニケーション	
日本語コミュニケーション	16
英語コミュニケーションⅠ	17
英語コミュニケーションⅡ	18
5 芸術文化	
音楽概論	19
美術概論	20
器楽アンサンブル	21
6 キャリア教育	
大学教育基礎演習	22
地域理解	23
7 体育	
体育〈実技〉	24
体育〈講義〉	25

授業科目名	日本国憲法	教員名	香川 智弘 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択			
					幼稚園教諭	必修			
小学校教諭	必修								
中学校教諭(英語)	必修								
高等学校教諭(英語)	必修								
ナンバリングコード	CM1-1001-211110	年次配当	1年前期	特別支援学校教諭					
授業形態	講義								
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択			
					英語教育専攻	選択			
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)								
各科目に含める ことが必要な事項	日本国憲法								
教科目	教養科目(保育士)								
系 列	教養科目								
授業テーマ	国民・人権・国家・社会を学ぶ。								
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。								
達成目標					科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.市民としての法感覚を養う。				◎				
	2.憲法の基本理念を知る。				◎				
	3.人権感覚を養う。				◎		○		
4.憲法的視点から今日の社会を学ぶ。				◎				○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 日本国民の要件 国籍法 (目標 1,3,4) 2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原理①国民主権 (目標 1,2) 3. 日本国憲法の基本原理②平和主義、基本的人権の尊重 (目標 1,2,3) 4. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 平等権・労働条件の男女平等 (目標 1,3,4) 5. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 尊属殺重罰事件 (目標 1,3,4) 6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由 (目標 1,3,4) 7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由 (目標 1,3,4) 8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権 (目標 1,3,4) 9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権 (目標 1,3,4) 10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権 (目標 1,3,4) 11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権 (目標 1,3,4) 12. 新しい人権①生命に対する権利 (目標 1,3,4) 13. 新しい人権②プライバシーの権利 (目標 1,3,4) 14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権 (目標 1,2,4) 15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治 (目標 1,2,4) 定期試験								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション								
成績評価基準	評価の方法:試験を80%と授業態度20% 評価の基準:授業内容の理解度と関心度等を評価する。								
フィードバックの方法	理解度を確保するために小テストを行い、採点して返却する。								
時間外の学習について	予習:次回の内容にあたるテキストの箇所を目を通す。各回90分程度 復習:内容を復習する。各回90分程度								
教材にかかわる情報	テキスト:香川智弘「憲法講義」 参考資料等:六法全書								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	世の中の動きに関心を持って下さい。								

授業科目名	心理学	教員名	堂野 佐俊 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択			
					幼稚園教諭				
小学校教諭									
中学校教諭(英語)									
高等学校教諭(英語)									
ナンバリングコード	CM1-1002-200000	年次配当	1年前期	卒業要件	特別支援学校教諭				
授業形態	講義				初等幼児教育専攻	選択			
単位数	2				英語教育専攻	選択			
教科目	教養科目(保育士)								
系 列	教養科目								
授業テーマ	行動の科学としての「心理学」について、広範囲の領域にわたり基礎的に理解する								
授業概要	人間の行動の不思議について、行動の基礎としての感覚・知覚及び学習のメカニズム、個人差やパーソナリティの形成、社会生活と適応、といった領域に関して、科学的学問としての立場から概観する。日常生活の中で一般的に見られ、体験されるような普段の現象について、実験や研究に裏付けられたデータに基づいて理解を深める。								
達成目標	1.行動の基礎となる情報の処理過程について理解する。 2.行動の習得と学習の理論について理解する。 3.パーソナリティの形成と個人差について理解する。 4.社会生活の意義と集団の効果について理解する。 5.適応行動と不適応行動の背景について理解する。				科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						◎			
						◎	○		
						◎	○		
						◎	○		
履修条件・注意事項	各自「心理学ノート」の作成が課せられます 授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 現代社会と心理学(心の科学) (目標 1) 2. 人間生活と心理学の発展 (目標 1) 3. 心(行動)の科学的研究 (目標 1) 4. 行動の基礎となる感覚・知覚(I)ー感覚ー (目標 1) 5. 行動の基礎となる感覚・知覚(II)ー知覚ー (目標 1) 6. 日常生活における知覚の現象 (目標 1) 7. 人間における「学習」の意義 (目標 2) 8. 記憶と忘却 (目標 2) 9. 思考と言語 (目標 2) 10. 個性の理解(I)ー知能ー (目標 3) 11. 個性の理解(II)ー感情・情動ー (目標 3) 12. 個性の理解(III)ーパーソナリティーー (目標 3) 13. 人間と社会的認知 (目標 4) 14. 社会的動機と態度 (目標 4) 15. 社会生活と集団力学 (目標 5) ◎定期試験								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション:毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。								
成績評価基準	評価の方法: 中途での心理学ノートの作成<参加態度>(30%)、及び期末試験(70%)の結果を総合的に評価する 評価の基準:授業内容の理解度と関心度等を評価する								
フィードバックの方法	期末試験後に希望者に応答する。								
時間外の学習について	予習:前もって配布する資料に予め目を通しておくこと。(各回 90 分程度) 復習:講義と配付資料に基づいて「心理学ノート」を作成して理解を深める。(各回 90 分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。 参考書:「心理学概論」(堂野佐俊・他、著、原岡一馬編)1995 ナカニシヤ出版 参考資料等:特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後のアクション・シートによる質問やコメント等を積極的に活用してほしい。 中学校教諭:実務経験をもとに生徒指導に関しての経験に基づく適応行動、不適応行動等のテーマについて話題を提供します。								

授業科目名	知的財産法入門	教員名	長田 和美	免許・資格との関係	保育士	
ナンバリングコード	CM1-1003-000000	年次配当	1年後期		幼稚園教諭	
授業形態	講義				小学校教諭	
単位数	2				中学校教諭(英語)	
授業テーマ	創作や他者創作を利用する際には、自己の権利の把握と他者の権利を尊重することが求められます。本科目では、社会人として知っておくべき、意識しておくべき教養として「知的財産」の基礎について学びます。					
授業概要	事例等を通して知的財産の全体像を理解すると共に、知的財産の創作や利用の際に必要な基礎的な知的財産権の知識と初歩的対応能力の形成を図ります。					
達成目標					科目 DP: (1)	
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1.知的財産の全体像、特に芸術に関連する知的財産権について理解する。				◎	
	2.芸術を含めた社会活動全般における知的財産の価値を理解する。				◎	
	3.創作者側と利用者側の両方の立場において知的財産権を意識し行動することができる。				◎	
4.芸術に関連するビジネスと知的財産権の関係性を理解する。				◎		
5.産業財産権を主とした知財情報へのアクセスができる。				◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 知的財産の全体像 (目標 1、2、3、4) 2. 著作権の基礎知識(2) (目標 1、2、3、4) 3. 著作権の基礎知識(2) (目標 1、2、3、4) 4. 著作権法に定められた権利 (目標 1、2、3、4) 5. 著作権法の個別権利制限(1) (目標 1、2、3、4) 6. 著作権法の個別権利制限(2) (目標 1、2、3、4) 7. 著作権に関わる情報検索(パソコン演習) (目標 5) 8. 産業財産権の基礎知識－特許－(1) (目標 1、2、3、4) 9. 産業財産権の基礎知識－特許－(2) (目標 1、2、3、4) 10. デザインの保護－意匠－ (目標 1、2、3、4) 11. 特許権・意匠権に関わる情報検索(パソコン演習) (目標 5) 12. 商標の基礎知識(1) (目標 1、2、3、4) 13. 商標の基礎知識(2) (目標 1、2、3、4) 14. 商標に関わる情報検索(パソコン演習) (目標 5) 15. 課題(パソコンを活用した知財情報検索) (目標 5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション					
成績評価基準	評価の方法:試験、課題、レポート等 評価の基準:①試験・課題(50%):知識・理解を測定 ②小レポート、ワークシート、宿題レポート(50%):思考・判断、関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	宿題レポート(一部のワークシートを含む)については次の講義開始時に解答例を示し解説する(回収したワークシートと宿題レポートはスキャン後に返却する)。小レポート等で質問があった際には次講義時に回答する。					
時間外の学習について	予習: インターネットやテレビ、新聞等において知的財産に関するニュースや話題を確認する。(各回 90 分程度) 復習: 教科書(授業で扱った範囲)を読み、宿題レポート、ワークシートに取り組む。(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト:「これからの知財入門 第3版」(ISBN 978-4-296-10630-1)、日経 BP 社、1500 円(税別) 参考書: 参考資料等:					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

授業科目名	哲学	教員名	岡村 康夫 (単独)	免許・資格 との関係	保育士				
ナンバリングコード	CM1-1004-000000				幼稚園教諭				
授業形態	講義	年次配当	1年前期		小学校教諭				
単位数	2				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択		
授業テーマ	哲学とはそもそも何かを、テキストに書かれた具体的な言葉やその時代背景を通して知り、理解し、さらにそれが現代において如何なる意味をもつかを考える。								
授業概要	ニーチェの『ツァラトゥストラかく語りき』を読みながら、物語展開のキーワードを手掛かりに、その思想の意義について考える。								
達成目標					科目 DP: (1)～(4)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.哲学とは何か分かる。					◎		○	
	2.哲学とその時代背景について知ることできる。					◎		○	
	3.現代における哲学的問題を理解できる。						◎	○	
4.現代の諸問題について考えることができる。						◎	○		
5.考えた結果について説明し、それに対する他者の意見を聞いて議論できる。							○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	<p>毎回、『ツァラトゥストラかく語りき』の一節を読みながら、そこに展開される思想について理解し、考え、意見を述べることを中心に授業を展開する。</p> <p>1. オリエンテーション 受講ルール ニーチェの生涯と思想(達成目標 2)</p> <p>2. ツァラトゥストラ序説 1 ツァラトゥストラの「没落」について(達成目標 2,3)</p> <p>3. ツァラトゥストラ序説 2 「神は死んだ」ということについて(達成目標 3,4)</p> <p>4. ツァラトゥストラ序説 3 「超人」の思想について(達成目標 3,4)</p> <p>5. ツァラトゥストラ序説 4 「超人」の思想について 続き(達成目標 3,4)</p> <p>6. ツァラトゥストラ序説 5 「末人」について(達成目標 3,4)</p> <p>7. ツァラトゥストラ序説 6 「綱渡り師と道化師」について(達成目標 1,4)</p> <p>8. ツァラトゥストラ序説 7 「綱渡り師の死」について(達成目標 1,4)</p> <p>9. ツァラトゥストラ序説 8 「綱渡り師の埋葬」について(達成目標 1,4)</p> <p>10. ツァラトゥストラ序説 9 「創造者」について(達成目標 1,4)</p> <p>11. ツァラトゥストラ序説 10 「蛇と鷲」について(達成目標 1,4)</p> <p>12. ツァラトゥストラの教え 1 「三つの変化」について(達成目標 1,3)</p> <p>13. ツァラトゥストラの教え 2 「徳」について(達成目標 1,4)</p> <p>14. ツァラトゥストラの教え 3 「背後世界」について(達成目標 1,3,4)</p> <p>15. まとめ ニヒリズムと現代(達成目標 1,5)</p> <p>◎定期試験</p>								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション(音読、キーワードの取り出し、発表、選択、理解、意見発表。)								
成績評価基準	評価の方法:定期試験 50%、講義への参加態度 25%、小レポート 25% 評価の基準:知識、理解、意欲、意見発表を重視します								
フィードバックの方法	講義内に、小レポートを課します(20 分間程度)。書かれたことについては、次回の講義において触れます。口頭での質問等についても、歓迎いたします。								
時間外の学習について	予習:次回該当箇所の音読、理解(各回 90 分程度)。 復習:講義内で指示(各回 90 分程度)。								
教材にかかわる情報	テキスト:講義中に配布します。 参考書:村井則夫著『ニーチェ～ツァラトゥストラの謎』中公新書 参考資料:須藤訓任著『ニーチェ(永劫回帰)という迷宮』講談社選書								
担当者からのメッセージ等実務経験について	哲学は「己事究明」に尽きます。講義では、ニーチェの『ツァラトゥストラかく語りき』をテキストに、その思想理解を通して、「自己に真摯に向き合うこと」を考えて頂きたいと思っております。 授業への積極的な参加を期待します!								

授業科目名	文 学	教員名	森野 正弘 (単独)	免許・資格 との関係	保育士				
					幼稚園教諭				
小学校教諭									
中学校教諭(英語)									
高等学校教諭(英語)									
ナンバリングコード	CM2-1005-000000	年次配当	2年後期	卒業要件	特別支援学校教諭				
授業形態	講義				初等幼児教育専攻	選択			
単位数	2				英語教育専攻	選択			
授業テーマ	日本文学作品を読解するための基本的な知識を身に着けるとともに、読解を通じて豊かな人間性を培う。								
授業概要	日本文学にはさまざまな主題が展開し、それぞれの作品において個性ある表現世界が作り出されている。授業では、古典の物語や近現代の小説を取り上げ、本文を講読しながら各作品の主題と特質を把握し、そこに描かれている価値観や心理の多様性と普遍性について検討する。								
達成目標	1.日本文学の主題や表現上の特質を発見することができる。 2.日本文学作品に描かれた登場人物の心情を理解することができる。 3.日本文学作品の読解を通じて得た感動を他者に伝えることができる。				科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						◎			
						◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 文学が拓く世界:詩的言語に関する講義。(目標 1) 2. 物語文学の誕生①:『竹取物語』を読解し、分析する。(目標 1) 3. 物語文学の誕生②:『竹取物語』の主題を検討する。(目標 1,3) 4. 物語文学の展開①:『伊勢物語』を読解し、分析する。(目標 1) 5. 物語文学の展開②:『伊勢物語』の主題を検討する。(目標 1,3) 6. 物語文学の達成①:『源氏物語』『帚木』巻を読解し、分析する。(目標 1) 7. 物語文学の達成②:『源氏物語』『夕顔』を読解し、分析する。(目標 1) 8. 小説が描く子どもたち①:芥川龍之介の短編小説を講読し、主題を検討する。(目標 1,2,3) 9. 小説が描く子どもたち②:谷崎潤一郎の短編小説を読解し、分析する。(目標 1,2) 9. 小説が描く子どもたち③:谷崎潤一郎の短編小説の主題を検討する。(目標 1,3) 10. 小説が描く子どもたち④:安岡章太郎の短編小説を講読し、主題を検討する。(目標 1,2,3) 11. 小説が描く子どもたち⑤:井上ひさしの短編小説を講読し、主題を検討する。(目標 1,2,3) 12. 現代の小説を読む①:村上春樹『パン屋再襲撃』を講読し、分析する。(目標 1,2) 13. 現代の小説を読む②:村上春樹『パン屋再襲撃』の主題を検討する。(目標 1,3) 14. 現代の小説を読む③:村上春樹『回転木馬のデットヒート』を講読し、分析する。(目標 1,2) 15. 現代の小説を読む④:村上春樹『回転木馬のデットヒート』の主題を検討する。(目標 1,3) ◎定期試験								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション:各作品の主題を検討する際には、適宜レスポンスカードを作成し、それに基づいてディスカッションを行う。								
成績評価基準	評価の方法:定期試験 80%、授業態度 20%により評価する。 評価の基準:定期試験では、作品の主題や表現上の特質についての知識・理解を測定する。授業態度では、レスポンスカードにおいて登場人物の心情理解や読解を通じて得た感動がどれだけ主題や表現に即して記述されているかにより、その思考・判断能力を測定する。								
フィードバックの方法	レスポンスカードにコメントを付けて返却する。								
時間外の学習について	予習:授業で取りあげる作品の作者について、文学史上の位置づけを調べておくこと。各回 90 分程度 復習:作品の主題について 200 字程度に要約しておくこと。各回 90 分程度								
教材にかかわる情報	テキスト:特になし								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	主要な場面を抜粋したプリントを配付します。なお、古典作品を読む際は、現代語訳を参照します。								

授業科目名	郷土史	教員名	尾崎 敬子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	
ナンバリングコード	CM1-1006-000000				幼稚園教諭	
授業形態	講義	年次配当	1年後期		小学校教諭	
単位数	2				卒業要件	初等幼児教育専攻
					高等学校教諭(英語)	
				特別支援学校教諭		
授業テーマ	建学の精神「至誠」の理解と本学で学ぶ意味 我が国の近代化に果たした長州藩(山口県)の役割を確認 郷土への誇りと愛着を高め、地域社会に貢献しようとする姿勢の涵養 評価能力の向上と、文化財を教材として活用する方策についての検討					
授業概要	建学の精神について理解することで、本学で学ぶ目的を意識化し、学びの動機づけを行う。 文化財を中心に、郷土の歴史や文化、自然などについて学び、各自設定したテーマで調査・研究を行う。 配付資料及びプレゼン資料を作成し、郷土の価値を自分の言葉で伝える表現方法を追求する。 発表を相互に評価し合うことで、学び合う姿勢や評価能力を高める。 文化財を教材化する上でのポイントについて考える。					
達成目標					科目 DP: (1)	
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)
	1. 建学の精神や近代化に果たした郷土の先達の活躍を通して、郷土史を学ぶ意義を理解できる。				◎	
	2. 山口県の歴史や文化について理解を深め、自分の言葉で郷土について語るができる。				○	◎
	3. 調査、研究の手法を学び、成果を資料にまとめて発信することができる。					◎
4. 文化財を中心とした地域資源を生かして、地域の活性化に取り組む意欲を高める。						
5. 郷土の文化財を教材として活用することができる。				○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 建学の精神と近代化における長州藩(山口県)の位置づけ(目標 1) 2. 山口県の国宝(目標 2) 3. 山口県の重要文化財Ⅰ(建造物)(目標 2) 4. 山口県の重要文化財Ⅱ(絵画・彫刻・工芸品)(目標 2) 5. 山口県の史跡・名勝(目標 2) 6. 山口県の特別天然記念物、重要民俗文化財(目標 2) 7. 山口県の重要伝統的建造物群保存地区(目標 2) 8. 山口県の登録文化財(目標 2) 9. ふるさと探訪Ⅰ(テーマ設定・情報収集)(目標 3) 10. ふるさと探訪Ⅱ(調査・情報収集)(目標 3)(課題研究) 11. ふるさと探訪Ⅲ(配付用資料及びプレゼン資料の作成)(目標 3) 12. 文化財の価値と活用Ⅰ(発表及び相互評価)(目標 3・4) 13. 文化財の価値と活用Ⅱ(発表及び相互評価)(目標 3・4) 14. 郷土の文化財の教材化Ⅰ(目標 5) 15. 郷土の文化財の教材化Ⅱ(目標 5)					
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①宿題・授業外レポート(20%):知識・理解及び思考・判断の測定 ②授業態度・授業への参加度(20%):思考・判断及び関心・意欲の測定 ③調査研究・発表(40%):関心・意欲及び技能・表現の測定 ④課題レポート(20%):思考・判断及び技能・表現の測定					
フィードバックの方法	質問については適宜対応し、プレゼンは相互評価によりコメントを出し合うことで、長所や課題を認識して改善に繋げる。					
時間外の学習について	予習:各回のテーマについて事前に調べまとめておく。「ふるさと探訪」のテーマを決め、調査・研究に取り組む。各回 90 分程度 復習:宿題・授業外レポート 各回 90 分程度					
教材にかかわる情報	テキスト:特になし(プリント配付) 参考書:山口県の歴史散歩(山川出版社)、山口県の歴史(山川出版社)、山口県文化財(山口県文化財愛護協会) 参考資料:山口県史及び各市町発刊の市・町史、文化財関連 HP					
担当者からのメッセージ等実務経験について	高校教員(日本史)及び文化財専門員経験:文化財を通して郷土を再発見し、地域への理解と愛着が高まる話をします。 郷土の歴史について学ぶことで、教員となった場合は、子どもたちが郷土への誇りと愛着を持てる授業に生かすことができます。 また、皆さん自身も、郷土の価値に改めて気づくことで、地域の活性化に貢献できる存在になりましょう。					

授業科目名	情報処理	教員名	三池 秀敏 山本 瑞恵 天満 誠也	免許・資格 との関係	保育士	選択		
					幼稚園教諭	必修		
小学校教諭	必修							
中学校教諭(英語)	必修							
ナンバリングコード	CM1-1007-211110	年次配当	1年前期	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修		
授業形態	演習				特別支援学校教諭			
単位数	2				初等幼児教育専攻	必修		
					英語教育専攻	必修		
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)							
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目							
教科目	教養科目(保育士)							
系	教養科目							
授業テーマ	情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて修得する。							
授業概要	授業は講義と演習を組み合わせで行う。内容理解のため授業中および時間外に演習課題を出す。							
達成目標					科目 DP: (2)			
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)		
	1.情報機器やネットワークに関する基本的事項を説明できる。				○	◎		
	2.パソコンで情報を取り扱うための情報リテラシーが身に付く。					◎		
3.文章作成、表計算、プレゼンテーション、インターネットおよび電子メールを理解し、活用できる。					◎			
4.情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。					◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ							
授業計画	1. オリエンテーション:機器の操作(コンピュータの基本)、ネットワークと情報モラル 2. 電子メールの使い方、Windows の基本操作等(目標 1,2) 3. 文章作成(Word の基本操作)(目標 2,3) 4. 文章作成(書式、図・表の挿入)(目標 2,3) 5. 文章作成(実用文章作成)(目標 2,3) 6. 表計算(Excel の基本操作)(目標 2,3) 7. 表計算(ワークシート、参照)(目標 2,3) 8. 表計算(式と関数1)(目標 2,3) 9. 表計算(式と関数2、グラフ作成)(目標 2,3) 10. Excel 活用のノウハウ(目標 2,3) 11. 情報化社会における諸問題(SNS・モラル・セキュリティ)(目標 4) 12. プレゼンテーション1:(PowerPoint の基本操作)(目標 3) 13. プレゼンテーション2:(スライド作成、アニメーション効果)(目標 3) 14. プレゼンテーション3:(自己紹介プレゼン資料作成・発表)(目標 3) 15. プレゼンテーション4:(自己紹介プレゼンⅡ)(目標 3) 定期試験(プレゼンテーション資料の完成・発表によって試験に代えることが有る)							
アクティブ・ラーニング	毎回の講義で演習課題を課し、回答を印刷提出させる。また、回答にコメントを付けて返却し、指導する。自己紹介プレゼンテーションでは、学生に質問させ質疑応答の形で積極的に授業に関わらせる(質問者には加点する)。							
成績評価基準	評価の方法: 課題及び小テスト 50%、授業への取り組み 20%、定期試験 30%として総合的に評価する。 評価の基準: 毎回の課題の評価を A, B, C, D の 4 段階で行い返却する。また、自己紹介プレゼンテーションの発表態度、質疑応答の態度等を同様に評価し、定期試験の点数との総合評価を行う。							
フィードバックの方法	毎回の課題等にコメントを付けて返却し指導する。							
時間外の学習について	予習: 次回の講義内容を事前にテキストで確認し、練習問題に目を通しておくこと。(各回 90 分程度) 復習: 前回の講義での課題の採点結果を把握し、疑問があれば次回の講義で質問すること。(各回 90 分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト: 学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く「情報リテラシー」(FOR 出版、2018)							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	情報処理(1年前期)、ICT を活用した教育の理論と方法(1年後期)、暮らしの中の科学(3年前期)、及びデータ科学とプログラミング(3年後期)の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。(授業中に作成した各種データの保存のため、USBメモリを準備してください。また、USBメモリの管理に注意すること。)							

授業科目名	データ科学とプログラミング	教員名	三池秀敏 辻岡博之 長 篤志	免許・資格 との関係	保育士				
					幼稚園教諭				
ナンバリングコード	CM3-1008-000000	年次配当	3年後期		小学校教諭				
					中学校教諭(英語)				
授業形態	講義	卒業要件	高等学校教諭(英語)						
単位数	2		特別支援学校教諭						
授業テーマ	情報理論、情報の表現、及びデータサイエンスの基本概念を学ぶ。また、小学校へのプログラミング教育の導入に対応し、基本言語によるプログラミングや電子黒板などの教育ICT機器活用の基礎を理解する。								
授業概要	自然科学が物質やエネルギーの科学であるのに対して、情報科学は20世紀に登場した新しい科学である。講義では、まず、計算の歴史や情報理論、平均情報量としてのエントロピー、人間の情報処理能力など、情報の概念と定量化について学ぶ。次に2進数による情報の表現と演算、符号化、及びデータサイエンスの基礎を学び、最後にプログラミング教育に必要な言語・機器について体験する。								
達成目標	1.計算の歴史、情報理論(情報の定量化など)を理解する 2.数値や文字情報などを表現する方法について理解する 3.データサイエンスの基本を学び、データ処理の実際を理解する 4.コンピュータの基本的な構造・動作とアルゴリズムを理解する 5.簡単なプログラミング言語を理解・活用し、教育に必要な機器の基本を理解する。				科目 DP: (2)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						○			
							◎		
							◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ								
授業計画	1. 情報科学とは: 計算の歴史と情報理論(目標 1) 2. 情報の概念と定量化: 情報量・情報エントロピー(目標 1,2) 3. 情報データの表現Ⅰ: 2進数、10進数、16進数など(目標 2) 4. 情報データの表現Ⅱ: 数値、文字、図形の表現(目標 2) 5. デジタルとアナログと符号化(目標 2) 6. データサイエンス・リテラシーⅠ: 社会におけるデータ・AI 利活用(目標 3) 7. データサイエンス・リテラシーⅡ: データ・AI 利活用における留意事項(目標 3) 8. データサイエンスの基礎Ⅰ: 時系列データの分析(平均・分散・偏差値)(目標 3) 9. データサイエンスの基礎Ⅱ: 時系列データ処理(周期性、ノイズ、スペクトル)(目標 3) 10. コンピュータシステムの構造とソフトウェア(基本ソフトとアプリケーションソフト)(目標 4) 11. 教育用基本プログラミング言語(Scratch 等)の紹介(目標 4,5) 12. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅰ(ゲームソフト開発)(目標 5) 13. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅱ(音楽演奏ソフト開発)(目標 5) 14. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅲ(教材開発)(目標 5) 15. 開発した教材のプレゼンテーション(目標 5) 定期試験(開発した教材の完成・プレゼンテーションにより、試験に代えることがある)								
アクティブ・ラーニング	前半の講義では、毎回課題を出し時間内にパソコンでミニレポートを作成・提出させる。また、後半の講義では、簡単なプログラミング言語でゲームや音楽演奏等のアプリケーションソフトを作成・発表させ理解を深める。								
成績評価基準	評価の方法: 毎回の課題に対するミニレポートの評価(30%)と制作されたソフトの評価(30%)、及び定期試験の評価(40%)を総合的に評価する。 評価の基準: ミニレポートの10課題は4段階評価、ソフト制作は3段階評価、定期試験は100点満点で評価する。								
フィードバックの方法	最初の10回の講義では、毎回課題を出し時間内にミニレポートを提出させ、次回にコメントを付けて返却し学生の理解を深める。後半では、学生が制作した作品を紹介させ、学生を交えて質疑応答を行う。								
時間外の学習について	予習: 教科書は使用しないが、2回目以降は前の抗議の最後に次回のプリントを配布し、事前の予習を義務付ける。 次回の講義の最初に学生に質問し、予習状況を確認する。(各回90分程度) 復習: 課題や制作物の評価・コメントを確認させ、次回の講義で質問時間を設けて理解を深める。(各回90分程度)								
教材にかかわる情報	参考書: 情報数学の基礎(幸谷、國持共著:2011年)、情報科学基礎—コンピュータとネットワークの基本(伊東俊彦著:2015年)など 参考資料等: 数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム(数理データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)								
担当者からのメッセージ等実務経験について	情報処理(1年前期)、ICTを活用した教育の理論と方法(1年後期)、暮らしの中の科学(3年前期)、及びデータ科学とプログラミング(3年後期)の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。(授業中に作成した各種データの保存のため、USBメモリを準備してください。また、USBメモリの管理に注意すること。)								

授業科目名	暮らしのなかの科学	教員名	三池 秀敏 開地 元典 辻岡 博之	免許・資格 との関係	保育士				
					幼稚園教諭				
ナンバリングコード	CM3-1009-000000	年次配当	3年前期		小学校教諭				
					中学校教諭(英語)				
					高等学校教諭(英語)				
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択			
単位数	2				英語教育専攻	選択			
授業テーマ	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、そして身近な暮らしの中の現象に自然科学的な視点を養う								
授業概要	人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、事象の数学モデルや自然界の物理法則から始め、身近な自然現象・気象現象・気候変動の理解と対応力を養う。								
達成目標					科目 DP: (2)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを学習する。					◎			
	2.科学的な視点と基本的な法則や概念を理解する。					◎			
	3.自然科学の知識を習得すると共に、自然と共生することの大切さを理解する。						◎		
4.自然科学的な見方、考え方など、正しい自然観が身に付くことを目標にする。						◎			
5.身近な自然現象としての気象現象や気候変動の知識を学び、自然災害への対応力を身に付ける。						◎	○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 序論:自然科学とは(目標 1) 2. 21世紀の課題としての気候変動への対応と時間学(目標 5) 3. 身近な自然現象としての気象現象(地震、津波、竜巻、台風)の理解と対応(目標 5) 4. 物質の成り立ちと貴金属の科学(目標 3) 5. 固体・液体・気体と密度と比重そして水の科学(目標 3) 6. 様々な力とその働き(目標 4) 7. 電気と磁気の働きと色と光そして電池の科学(目標 4) 8. 熱と温度およびエネルギー(目標 4) 9. 光と電磁波そして音の科学(目標 4) 10. 身近な化学(石けん・洗剤そして味の化学)(目標 4) 11. 細胞の構造・体の仕組みと働き(目標 3) 12. 代謝・呼吸・循環と栄養の化学(目標 3) 13. 微生物と発酵の化学(目標 3) 14. 免疫と遺伝とクスリと毒の化学(目標 3) 15. 新しい科学:生きたシステムの科学(目標 1) 定期試験								
アクティブ・ラーニング	授業の中で毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用したレポートを作成し印刷して提出させる。次回の講義の最初に何人かセレクトして発表させ、意見交換を行う。								
成績評価基準	評価の方法: 毎回の調査課題のレポートを A,B,C,D の4段階で採点・評価+期末試験の実施 評価の基準: 調査レポートの量(字数)と質(課題への回答の的確性)、及び期末試験の点数(100点満点)								
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートの評価を A,B,C,D の4段階で評価し、コメントを付けて返す。課題レポートの発表者に対するコメント。								
時間外の学習について	予習: 参考書や参考となるインターネット上のテキスト(北海道大学オープンコースウェア等)の閲覧(各回90分程度) 復習: 返却されたレポートをブラッシュアップし、改訂版を提出させる。改訂版で最終的に評価する。(各回90分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:「楽しく学ぶ 暮らしの化学」(竊田守, 化学同人, 2021年) 参考資料等: https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy1-2009 (北海道大学オープンコースウェア:ゼロから始める科学力)								
担当者からのメッセージ等実務経験について	大学は自ら疑問を持ち、自ら調査し、自分なりの理解を得る学びの場です。新図書館やインターネットを活用して、調査レポートを作成するコツを身に付けましょう。また、自分なりの自然科学の研究課題を設定し「研究」して下さい。								

授 業 科 目 名	日本語コミュニケーション	教 員 名	上田 保明 (単独)	免許・資格 との関係	保 育 士	
					幼 稚 園 教 諭	
ナンバリングコード	CM1-1010-000000	年次配当	1 年前期	卒業要件	小 学 校 教 諭	
					中 学 校 教 諭 (英 語)	
授 業 形 態	演 習				高 等 学 校 教 諭 (英 語)	
					特 別 支 援 学 校 教 諭	
単 位 数	2				初 等 幼 児 教 育 専 攻	選 択
					英 語 教 育 専 攻	選 択
授 業 テ ー マ	コミュニケーションの成立 コミュニケーションに関わる諸条件 敬語コミュニケーション					
授 業 概 要	日本語を媒体としたコミュニケーションのあり方を認識するとともに、様々な事例を引用し、主体的な体験をとおして一人一人のコミュニケーション能力を培う。					
達 成 目 標					科目 DP: (2)	
					DP 番号	
	1.日本語コミュニケーションの成立過程を理解する。				(1)	(2)
	2.日本語コミュニケーションに関わる諸条件を理解する。				(3)	(4)
	3.コミュニケーション力を高める方法を活動をとおして学ぶ。					
	4.文学の名作に秘められたコミュニケーションを高めるヒントを学ぶ。					
5.コミュニケーションを取り巻く要素を見出す。						
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. コミュニケーションの成立 (1) ことばによるコミュニケーションの現れ (目標 1) 2. コミュニケーションの成立 (2) 挨拶から会話へ (目標 1,2) 3. 幸せになる方法 「手紙文化」を学ぶ。(目標 3,4) 4. コミュニケーション力の心理的メカニズム 言葉を育む要因 (目標 2) 5. コミュニケーションと「間」を考える。世阿弥のことばに学ぶ。(目標 2,3) 6. 想像力とコミュニケーションの関係を夏目漱石『三四郎』(一)から読み取る。(目標 4,5) 7. 恩師へあてて「手紙」を書く。(目標 3,5) 8. 想像力とコミュニケーションの関係を夏目漱石『三四郎』(二)から読み取る。(目標 4,5) 9. 敬語の文化(1) 敬語の体系を理解する。尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語 (目標 1,3,5) 10. 敬語の文化(2) テーマ「敬語は必要か」でディベートの実施(1) (目標 3,5) 11. 敬語の文化(3) テーマ「敬語は必要か」でディベートの実施(2) (目標 3,5) 12. 敬語コミュニケーションにおける「丁寧さ」の原理 (目標 2) 13. コミュニケーション力を磨く コミュニケーション力を磨く工夫 (目標 3) 14. コミュニケーションを深める表情の体験 (目標 3) 15. まとめ 心を開くコミュニケーション (目標 1,2,5)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ ディベート					
成績評価基準	評価の方法:・ノート提出50% ・課題、小テスト30% ・授業態度、取組20% 評価の基準:コミュニケーションを高める方法を体得したか。					
フィードバックの方法	発表や演技について学生同士お互いが指摘し合う。					
時 間 外 の 学 習 について	予習:小説の読み、各回に出す課題について調べる。(各回 90 分程度) 復習:「日本語コミュニケーション」に関わる自分の問題点をまとめる。(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト:夏目漱石『三四郎』 プリント配布 参考書:その都度紹介する。 参考資料等:					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	最初の声かけ一つで、人の印象は変わるものです。幼児、児童、生徒、保護者、同僚等と好ましい人間関係を築く人との接し方、かわり方を体験を交えて学びましょう。 小学校教員経験:実務経験をもとに日本語を媒体とした国語教育のあり方について話をします。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	教員名	檜垣 英夫 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択			
					幼稚園教諭	必修			
小学校教諭	必修								
中学校教諭(英語)	必修								
ナンバリングコード	CM1-1011-211110	年次配当	1年前期	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修			
授業形態	演習				特別支援学校教諭				
単位数	2				初等幼児教育専攻	選択			
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)								
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目								
教科目	教養科目(保育士)								
系 列	教養科目								
授業テーマ	グローバル社会に求められる英語コミュニケーション力の基礎を身に付けるために、英語を使用する上で欠かせない必須文法と4技能(「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」)を統合的に活用しながら学習する。								
授業概要	ユニットごとに設定された文法を確認した上で、基本的な英文を読んだり書いたりするとともに、日常会話に必要なフレーズや語彙を、聞いたり話したり活動を通して学ぶ。								
達成目標	1.英語で自分自身を表現することができる。 2.身近な話題で相手とコミュニケーションを図ることができる。 3.演習を通して英語で積極的に話したり聞いたりする態度を身に付けることができる。 4.英語の4技能をバランスよく身に付けることができる。				科目 DP: (2)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
							◎		◎
									◎
									◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ②面接授業と遠隔授業等との併用								
授業計画	1. On My Way to Silicon Valley[現在分詞](目標 1,2,3,4) 2. Welcome to San Francisco[代名詞](目標 1,2,3,4) 3. First Day of Internship[前置詞(時・場所)](目標 1,2,3,4) 4. Fun Times, but . . .[過去時制](目標 1,2,3,4) 5. They Look Good on You[可算・不可算名詞](目標 1,2,3,4) 6. Tech Talk[WH 疑問文](目標 1,2,3,4) 7. You're Sitting on it . . .[進行形](目標 1,2,3,4) 8. Going Green[助動詞](目標 1,2,3,4) 9. Time to Work[Will & Be going to] 10. Know Your Business[比較級・最上級](目標 1,2,3,4) 11. The Job Interview[現在完了](目標 1,2,3,4) 12. Is Your Company Right for You?[不定詞](目標 1,2,3,4) 13. Email Matters[動名詞&不定詞](目標 1,2,3,4) 14. On the Move[受動態](目標 1,2,3,4) 15. Good News[関係詞](目標 1,2,3,4)								
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション 等								
成績評価基準	評価の方法: 小テスト・課題テスト等 60%、授業の参加度等(レポート、発表、授業における積極性等) 40% 評価の基準: 知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。								
フィードバックの方法	小テスト等において個別還元指導								
時間外の学習について	予習: 指定された Lesson について、付属CD等で内容を確認しておく。各回 90 分程度 復習: 既習 Lesson の目標となる表現を円滑に使用できるように、文法を含め反復的に学習をする。 各回 90 分程度								
教材にかかわる情報	テキスト: 『English Booster!』金星堂 参考書: 適宜紹介 参考資料等: 随時プリント配布								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	グローバル社会において、英語で自分自身を表現したり、海外からの訪問者に身近な話題でコミュニケーションを図ったりすることができることは、学校現場等で国際交流を担当していた経験から、非常に重要であると実感しています。世界の様々な人々と英語でコミュニケーションを図ることができるよう、その基盤を築いていきましょう。								

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	教員名	中垣 謙司 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択			
					幼稚園教諭				
ナンバリングコード	CM1-1012-200000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭				
					中学校教諭(英語)				
授業形態	演習				高等学校教諭(英語)				
単位数	2				特別支援学校教諭				
教科目	教養科目(保育士)								
系 列	教養科目								
授業テーマ	グローバル化が急速に進展し、国際共通語となりつつある英語力の向上が求められている中、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。								
授業概要	電子黒板等を活用し、様々な話題や場面で使われる英語表現を習得し、聞くことや話すことを中心とした会話演習を行う。								
達成目標	1.日常会話に必要な語彙・表現を身につける。 2.実践的な表現を理解し、聞き取ることができる。 3.自分の考えを、習得した英語表現を使って、はっきりと発表できる。 4.課題に主体的に取り組み、学習意欲をもって授業に積極的に参加することができる。				科目 DP: (2)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						◎	○	○	
						◎	○	○	
							◎	○	○
			○	○	◎				
履修条件・注意事項	授業の実施方法:原則として面接授業(場合によっては遠隔授業)								
授業計画	1. Meeting and greeting: 自己紹介・あいさつの仕方/Be 動詞・一般動詞 (目標 1,2) 2. Family and friends: 友人へ家族の紹介方法/Be 動詞短縮形 (目標 1,2) 3. Likes and dislikes: 好き嫌いの伝え方/主語と一般動詞の呼応 (目標 1,2,3) 4. Good habits and bad habits: 日頃の習慣の話し方/頻度を表す表現・時刻の表し方(目標 1,2,3) 5. Review Unit 1-4: 第1回～第4回の復習 (目標 2,3,4) 6. Summer and fun: 夏休みの計画の話し合い方/規則動詞・不規則動詞 (目標 1,2,3,4) 7. Here and there: 行き先の尋ね方/主語と Be 動詞の呼応 (目標 1,2,3,4) 8. Giving and receiving: 贈り物や買い物の仕方/名詞の単数形・複数形 (目標 1,2,3,4) 9. Parties and Fashion: パーティでの服装の伝え方/可算名詞・不可算名詞 (目標 1,2,3,4) 10. Review Unit 5-8: 第5回～第9回の復習 (目標 2,3,4) 11. Physical Education and health: 保健体育に関する表現/動詞の do・go の慣用表現 (目標 1,2,3,4) 12. Nursery school and daycare: 幼稚園等でのボランティア活動の紹介方法/肯定文・否定文(目標 1,2,3,4) 13. Educating and caring: 障害のある子どもの支援についての話し合い方/形式主語の It(目標 1,2,3,4) 14. Bulling and other problems: いじめ等の問題についての話し合い方/使役動詞(目標 1,2,3,4) 15. Review Unit 9-12: 第9回～第12回の復習 (目標 2,3,4) 定期試験								
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等								
成績評価基準	評価の方法: 定期試験 60%。授業の参加度(課題テスト、発表、授業態度) 40% 評価の基準: 知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。								
フィードバックの方法	小テスト時等において個別還元指導								
時間外の学習について	予習: 指定された Lesson について、付属CD等を活用して内容を確認しておく。各回 90 分程度 復習: 既習 Lesson の目標表現が円滑に使用できるようにする。各回 90 分程度								
教材にかかわる情報	テキスト: 『Student Teacher』南雲堂 参考書: 適宜紹介 参考資料等: 随時プリント配布								
担当者からのメッセージ等実務経験について	授業で「わかった」ということと、それが「できる、身につけている」ということは全く別物です。反復練習等を通して、重要表現を確実に活用できるよう、毎回の予習・復習を徹底してください。高校教員・県教委指導主事の実務経験をもとに聞く・話すことを中心とした演習を行います。								

授業科目名	音楽概論	教員名	河北 邦子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択		
ナンバリングコード	CM1-1013-200000				年次配当	1年前期	幼稚園教諭	
授業形態	講義	小学校教諭						
単位数	2	中学校教諭(英語)						
教科目	教養科目(保育士)				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択	
系 列	教養科目				英語教育専攻	選択		
授業テーマ	楽典の基礎知識, 創作の基礎知識, 演奏に関する知識, 音楽の歴史							
授業概要	教育者・保育者として必要な音楽の基礎知識を、受講者が互いに音楽活動を通して実践的に関わりながら理解する。							
達成目標					科目 DP: (1)			
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)		
	1. 音楽を特徴づけている要素の基礎知識を、演習等により理解できる				◎	○		
	2. 音楽の仕組みの基礎知識を、演習を通して理解できる。				◎		○	
	3. 演奏に関する基礎知識を理解できる。					◎		○
4. 音楽史の概要を理解できる。					○	○	○	
5. 幼児・児童期の音楽教育との関連に気づくことができる。						○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ②面接授業と遠隔授業等の併用							
授業計画	1. 拍の理解, 音楽の起源 < 音符, 拍子, 縦線と小節, 古代の音楽 > (目標 1,4) 2. 音の長さの理解 < 音符, 音価, リズム, 古代の音楽 > (目標 1,4) 3. リズムの理解, 中世の音楽 < 符点音符, ポリフォニー > 4. 音の高さの理解 < 譜表, 音部記号, 複旋律音楽 > (目標 1,4) 5. 音名の理解, バロックの音楽 < 音名, 幹音・派生音, バッハ > (目標 1,4) 6. 拍子と強弱の理解 < 拍子記号, ダイナミック, > (目標 1,4) 7. 記号や標語の理解, 古典派の音楽1 < 速度標語, 奏法用語, モーツァルト > (目標 1,4) 8. 1~7回までの復習と小試験 (目標 1,4) 9. 音程の理解1 < 完全音程, 長音程, 短音程, > (目標 1,4) 10. 音程の理解2 古典派の音楽2 < 音程の度数, ベートーヴェン > (目標 1,4) 11. 音階の理解1 ロマン派の音楽 < 長音階, シューベルト > (目標 1,4) 12. 音階の理解2 < 短音階 > (目標 2,4) 13. 移調・転調の理解, 国民楽派の音楽 < チャイコフスキー > (目標 2,4) 14. 楽曲形式の理解 < 唱歌形式 > (目標 2,4) 15. 演奏の形態の理解, 日本音楽, まとめ < 声, 楽器, 演奏形態, 箏曲 > (目標 3,4) 定期試験							
アクティブ・ラーニング	1人か2人、あるいは小グループの音楽的活動を取り入れ、音楽の基礎知識について実践的に理解すると共に、互いに確認し、また理解を深めていく。							
成績評価基準	評価の方法: 定期試験(60%)、小試験(40%) 評価の基準: 音楽の基礎知識を理解し、歌唱教材の特徴等を、関心をもって見出すことができるか。 鑑賞活動を通して、音楽の美しさや快さを感じ取ることができるか。							
フィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する。演習の中で、評価を通して伝える。							
時間外の学習について	予習: 次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。(各回 90 分程度) 復習: 毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。(各回 90 分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト: 『最新 学生の音楽通論』 供田武嘉津著 (音楽之友社) 参考資料等: 適宜プリントを作成し配布する。							
担当者からのメッセージ等実務経験について	高等学校教員(音楽)の実務経験をもとに、音楽の基礎的な理論について話します。							

授業科目名	美術概論	教員名	武田 雅行 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択			
					幼稚園教諭				
小学校教諭									
中学校教諭(英語)									
高等学校教諭(英語)									
ナンバリングコード	CM1-1014-200000	年次配当	1年前期	特別支援学校教諭					
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択			
単位数	2			英語教育専攻	選択				
教科目	教養科目(保育士)								
系 列	教養科目								
授業テーマ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性								
授業概要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である」とも言われ、各時代の社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、パワーポイント、DVD等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。								
達成目標	1.西洋を中心とした美術の歴史の流れを理解できる。 2.芸術の様式・主義・運動とともに各時代の社会的背景を理解できる。 3.素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や技法についての知識を習得する。 4.学んだことをノートに記録して、美術作品への思いや、知識の定着を図ることができる。				科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						◎		○	
						◎		○	
						○		◎	
		○		◎					
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 導入 授業概要の説明 西洋美術の流れ 古代オリエント美術(目標 1,2) 2. 美術史 エジプトの美術(目標 1,2,3) 3. 美術史 ギリシャの芸術 I (目標 1,2,3) 4. 美術史 ギリシャの芸術 I (目標 1,2,3) 5. 美術史 ローマ・中世の美術(目標 1,2,3) 6. 美術史 イタリア初期ルネッサンス(目標 1,2,3) 7. 美術史 イタリア盛期ルネッサンス I (目標 1,2,3) 8. 美術史 イタリア盛期ルネッサンス II (巨匠の時代) (目標 1,2,3) 9. 美術史 バロック・北方ルネッサンス(目標 1,2,3) 10. 美術史 ロココ(18世紀フランス) (目標 1,2,3) 11. 美術史 近代絵画(新古典・ロマン・写実) (目標 1,2,3) 12. 美術史 近代絵画(印象派) (目標 1,2,3) 13. 美術史 近代絵画(後期印象派) (目標 1,2,3) 14. 美術史 現代の美術 I (セザンヌ以降) (目標 1,2,3) 15. 美術史 現代の美術 II (20世紀美術) (目標 1,2,3) 定期試験								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション								
成績評価基準	評価の方法:期末試験(配点 80%) ノート提出(配点 20%) 評価の基準:学習内容の理解度と授業への取り組み(テキストおよび講義等での知識を扱った問題に解答できる)								
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、解説を行なう。								
時間外の学習について	予習:テキストを読んでおく。 復習:学んだ作家や作品について更に調べ、配布のプリントにまとめる。								
教材にかかわる情報	テキスト:『鑑賞のための西洋美術史入門』 著者:早坂優子 出版社:株式会社視覚デザイン研究所 参考書:授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等:								
担当者からのメッセージ等実務経験について	最終授業終了後、A4 ファイルにまとめたノートを提出。								

授業科目名	器楽アンサンブル	教員名	小野 隆洋 (実務経験)	免許・資格 との関係	保育士				
					幼稚園教諭				
小学校教諭									
中学校教諭(英語)									
高等学校教諭(英語)									
ナンバリングコード	CM4-1015-000000	年次配当	4年前期	特別支援学校教諭					
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択			
単位数	2			英語教育専攻	選択				
授業テーマ	学校教育における金管バンドや吹奏楽の指導に必要な知識と演奏に関する指導力を身につける。								
授業概要	器楽合奏の実践を通して、器楽演奏に関する基本的な知識や演奏法、指導法を学んでいく。								
達成目標	1.学校教育現場で用いられる管楽器および打楽器についての知識を深める。 2.各管楽器、打楽器の基礎的な奏法を修得する。 3.各楽器の演奏の様式や演奏法について知識を深める。 4.金管バンドや吹奏楽などの器楽合奏の指導法を修得する。				科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
						◎	○		
						◎	○		
						◎	○		
		○	◎						
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. 各楽器のメンテナンス方法と楽器の構え方、演奏姿勢 (目標 1,2) 2. 呼吸法、アンブッシュア、バジィング (目標 1,2,3) 3. 各楽器のチューニング (目標 2,3) 4. 全体のチューニング (目標 2,3,4) 5. 発音の練習 (目標 2,3) 6. ロングトーン (目標 2,3) 7. ユニゾンの練習 (目標 1,2,3,4) 8. 変ロ長調の音階練習 (目標 2,3,4) 9. 半音階の練習 (目標 2,3,4) 10. 和音練習(ハーモニーとバランス)(目標 3,4) 11. 様々なリズムを用いての和音練習 (目標 1,2,3) 12. メソッドを使つてのトレーニング① (目標 2,3,4) 13. ダイナミクスの変化① (目標 2,3,4) 14. コラールの練習① (目標 1,3,4) 15. 総合練習 (目標 1,2,3,4)								
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション								
成績評価基準	評価の方法:①授業への取り組み(50%) ②課題演習(50%) 評価の基準:①関心・意欲、協働で行う活動への貢献度の測定 グループ活動での活動に積極的である ②知識・技能、思考・判断、表現力を測定 学んだ技法を再現できる								
フィードバックの方法	各回の実技演習の際に課題を設定して、個別に助言を行う。								
時間外の学習について	予習:次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習(各回90分程度) 復習:合奏の中で難しかった箇所や、出来なかった箇所の練習(各回90分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト:バンドスタディ、様々なスタイルによる楽曲の楽譜 参考書:適時、必要なプリントを配布								
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏家経験:国内外の音楽事情、実践的な演奏法に対するアプローチについて講義します。								

授業科目名	大学教育基礎演習	教員名	佐藤 真澄 他	免許・資格 との関係	保育士			
					幼稚園教諭			
小学校教諭								
中学校教諭(英語)								
ナンバリングコード	CM1-1016-000000	年次配当	1年前期	卒業要件	高等学校教諭(英語)			
授業形態	演習				特別支援学校教諭			
単位数	2				初等幼児教育専攻	必修		
					英語教育専攻	必修		
授業テーマ	初年次教育							
授業概要	大学での学修に必要となる知識や技能、大学生に求められる常識・生活態度などを身につけるための授業である。また、本大学の歴史や教育理念について理解するとともに、学びに特色である「子ども学」や「グローバル学」、「芸術表現」について基本的な考え方を学ぶ。見学実習を通して、子どもと関わる資質を修得する。							
達成目標					科目 DP: (3)			
					DP 番号	(1) (2) (3) (4)		
	1. 大学での学修に必要となる知識・技能について理解することができる。				◎	○		
	2. 大学生に求められる常識や生活態度を身につけることができる。				◎	○	○	
	3. 体験的・協働的な学習を通じて、コミュニケーション力を形成することができる。					◎	○	
4. 自分が体験し考えたことを表現し、他者に伝えることができる。					◎	○		
5. 大学教育・大学生生活に対する動機や心構えを形成し、自身の課題や目標を設定することができる。						◎	○	
履修条件・注意事項	4時間2単位で開講する。 授業の実施方法: 面接授業のみ							
授業計画	1. 山口学芸大学の「建学の精神」「教育理念・ビジョン」 2. 本学における ICT 環境とその活用 3. 教育学部のカリキュラム構成と履修モデル① 4. 教育学部のカリキュラム構成と履修モデル② 5. ノートの活用方法等 6. 山口学芸大学の学生として求められること 7. 社会の一員として求められること 8. 教育者・保育者を目指すなかで考えるべきこと 9. キャリア形成の考え方 10. 環境整備の意義と方法 11. 図書館の活用と文献検索① 12. 図書館の活用と文献検索② 13. 造形表現の基礎① 14. 造形表現の基礎② 15. 音楽表現の基礎①			16. 音楽表現の基礎② 17. 「グローバル学」と課題解決型学習(PBL)の考え方 18. 論理的思考および問題発見・解決能力 19. レポート・論文の書き方と文章作法① 20. レポート・論文の書き方と文章作法② 21. 実習等の学外活動での心構え・マナー 22. 「子ども学」の考え方と子どもの理解 23. 幼児期の子どもの理解 24. 乳児期の子どもの理解 25. 幼稚園の機能と役割 26. 保育所の機能と役割 27. 大学生の学びとしてのメンタルヘルス 28. プレゼンテーション・スキルの基礎 29. 「社会人」に向けて、今、身につけておきたいこと 30. まとめのグループ討議				
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、実習・フィールドワーク							
成績評価基準	評価の方法: ①レポート等の提出課題(50点)、②授業への参加度・提出されたノート等(50点) 評価の基準: ①学んだ内容を踏まえて自説を述べているか、②ディスカッションやグループワークで積極的に発言できているか							
フィードバックの方法	レポート等については授業中にコメントする。個人の課題については、チューターによる個別指導等に反映させる。							
時間外の学習について	予習: 討論や話し合いが予定される場合には、各自で意見をまとめておく(各回90分程度) 復習: 各回の要点と自身の学びについて整理し、ノートにまとめる(各回90分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト: なし 参考書: 適宜紹介する 参考資料等: 適宜紹介する							
担当者からのメッセージ等実務経験について	大学での学びを円滑に進めていくための体系的なプログラムです。授業以外に見学実習や基礎学力テスト(成績評価には含めず)も実施します。 複数の教員がオムニバス形式で担当します。							

授業科目名	地域理解	教員名	福屋 利信 他	免許・資格 との関係	保育士		
					幼稚園教諭		
小学校教諭							
中学校教諭(英語)							
高等学校教諭(英語)							
ナンバリングコード	CM1-1017-000000	年次配当	1年前期 (集中講義)	卒業要件	特別支援学校教諭		
授業形態	講義				初等幼児教育専攻	選択	
単位数	2				英語教育専攻	選択	
授業テーマ	山口の歴史及び現在を理解し、地域理解を深める						
授業概要	山口県は、地理的に韓半島、中国大陸、台湾島と近く、過去から現在に至るまで、親密な相互関係を維持してきた。そのことへの理解を深める。加えて、山口県が日本の近代化に果たした役割を把握し、現在の政治・経済・文化の状況併せて知る						
達成目標	地域学は、その地域の文化や特徴を学ぶとともに、今日のグローバル社会においては、地域と世界がどうかかわっていたか、あるいはどうかかわっていく可能性があるかを学ぶことが重要である 1.下関と釜山の関係を学ぶ 2.周南と台湾の関係を学ぶ 3.周防大島とハワイの関係を学ぶ 4.萩が果たした日本近代化への貢献を学ぶ 5.山口県の現状を企業・地方自治体・NPO 法人・等で働く人から学び、それらに対して自身の意見を持つ	科目 DP: (3)					
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
			○	○	◎	◎	
			○	○	◎	◎	
			○	○	◎	◎	
			○	○	◎	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. ガイドンス(山口のブランドイメージ)(目標5) 2. 関釜連絡船と下関(目標1) 3. 関釜フェリーと下関(目標1) 4. 映画『チルソクの夏』鑑賞(目標1) 5. 映画『チルソクの夏』鑑賞(目標1) 6. 周南出身の台湾総督・児玉源太郎の生涯(目標2) 7. 映画『KANO』鑑賞(目標2) 8. 周防大島のハワイ移民(目標3) 9. 映画『ピクチャープライド』鑑賞(目標3) 10. 萩と吉田松陰(目標4) 11. 映画『長州ファイブ』鑑賞(目標4) 12. 山口の企業人からの講義(目標5) 13. 山口の地方公務員からの講義(目標5) 14. 山口のNPO 法人からの講義(目標5) 15. まとめ(山口の未来についてのディスカッション)(目標5) 定期試験(最終レポート提出)						
アクティブ・ラーニング	積極的な意見を述べる。学生間での活発なディスカッション及びディベート						
成績評価基準	評価の方法: 最終レポート50%、授業への参加度50% 評価の基準: 学んだ内容を踏まえて自分の意見を述べることができるか						
フィードバックの方法	授業時に質問を受ける						
時間外の学習について	予習: 各回のテーマについて文献・インターネット等で情報収集する(各回90分程度) 復習: 講義内容についてノート等にまとめておく(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	福屋利信『海峽から聞こえてきたブルース: 関釜連絡船と関釜フェリーが帯びた記号論』(大学教育出版社) * 第1回目の授業で販売(1500円: 税込み) 福屋利信『台湾の表層と深層: 台湾人のホンネと長州人の熱情』(かざひの文庫) * 必要な部分のプリントを配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	Think Globally, Act Locally!!!						

授業科目名	体育(実技)	教員名	吉野 信朗 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修			
					幼稚園教諭	必修			
小学校教諭	必修								
中学校教諭(英語)	必修								
高等学校教諭(英語)	必修								
ナンバリングコード	CM1-1018-111110	年次配当	1年前期	特別支援学校教諭					
授業形態	実技								
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択			
					英語教育専攻	選択			
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))								
各科目に含める ことが必要な事項	体育								
教科目	教養科目(保育士)								
系列	教養科目								
授業テーマ	新しい学校体育の新種目への理解と指導技術の向上								
授業概要	新しい球技の理解と技術の向上を指導者の立場での指導法を身につけながら、自らチームワーク等の社会性を身につける。								
達成目標					科目 DP: (1)				
					DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.スポーツの知識を得る				◎				
	2.レクリエーションの理解と指導技術の向上				◎	○			
	3.レクリエーションバレーボールの理解と指導技術の向上				◎				
	4.バドミントンの理解と指導技術の向上				◎				
	5.卓球の理解と指導技術の向上				◎				
	6.ドッチビーの理解と指導技術の向上				◎				
7.Tボールの理解と指導技術の向上				◎					
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ								
授業計画	1. オリエンテーション (目標 1,2) 2. レクリエーション (目標 2) 3. レクリエーションバレーボール1 基礎 (目標 1,3) 4. レクリエーションバレーボール2 試合 (目標 1,3) 5. バドミントン1 基礎 (目標 1,4) 6. バドミントン2 試合 (目標 1,4) 7. バドミントン3 基礎・演習・試合 (目標 1,4) 8. 卓球1 基礎 (目標 1,5) 9. 卓球2 試合 (目標 1,5) 10. 卓球3 基礎・演習・試合 (目標 1,5) 11. ドッチビー1 基礎 (目標 1,6) 12. ドッチビー2 試合 (目標 1,6) 13. Tボール1 基礎 (目標 1,7) 14. Tボール2 試合 (目標 1,7) 15. まとめ(目標 2)								
アクティブ・ラーニング	実技、ディスカッション								
成績評価基準	評価の基準:授業意欲 20% 授業態度関心 20% 発言、レポート等 20% 授業課題 40% 評価の方法:授業へ真面目に取り組み積極的な態度を重視する								
フィードバックの方法	授業中に随時質問に対する回答や技術に対するアドバイス								
時間外の学習について	予習:その種目への知識・ルール等の学習(45分) 復習:その種目の習慣化と試合の進行・審判法(45分)								
教材にかかわる情報	参考書:豊田博成2名「スポーツルール百科」他								
担当者からのメッセージ等 実務経験について	ニュースポーツをして協調性・社会性を身につけよう。								

授業科目名	体育(講義)	教員名	原井進 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
小学校教諭	必修					
中学校教諭(英語)	必修					
高等学校教諭(英語)	必修					
ナンバリングコード	CM1-1019-111110	年次配当	1年前期	特別支援学校教諭		
授業形態	講義					
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					英語教育専攻	選択
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))					
各科目に含める ことが必要な事項	体育					
教科目	教養科目(保育士)					
系列	教養科目					
授業テーマ	学生が健康に対してより興味がわき、より身近な問題として捉え、救急法等で児童等の安全を守れるように専門知識や実践力を身につける。					
授業概要	体育の必要性や意義と日本における原始時代から平成の現代まで体育の歴史など基本的なことを学習する。次に学生の好む色々なスポーツのルールや解説を学習する。 幼児も含め色々な救急法を、実践を通して学ぶ。また、学生の健康に関する問題を取り上げ、考察する。					
達成目標					科目DP:(1)	
					DP番号	(1) (2) (3) (4)
	1.日本体育史の理解				◎	
	2.スポーツのルールの理解				◎	
	3.救急法の理解				◎	
4.スポーツへの理解を深める				◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1、体育の意義、日本体育史(目標1) 2、スポーツのルールと解説(バレーボール)(目標2) 3、スポーツのルールと解説(バドミントン、卓球)(目標2) 4、スポーツのルールと解説(ボウリング、その他のスポーツ)(目標2) 5、救急法(事故者の見方)(目標3) 6、救急法(止血法、事故者の体位)(目標3) 7、救急法(蘇生法)(目標3) 8、救急法(病気の解説と救急法)(目標3) 9、救急法(ケガの解説と救急法)(目標3) 10、現代の健康問題(喫煙)(目標4) 11、現代の健康問題(飲酒)(目標4) 12、現代の健康問題(ドライブ)(目標4) 13、現代の健康問題(肥満)(目標4) 14、現代の健康問題(エイズ)(目標4) 15、現代の健康問題(大麻、覚醒剤)(目標4) 筆記試験					
アクティブ・ラーニング	テーマを設けグループワークをしてグループごとのプレゼンを行う					
成績評価基準	評価の方法:筆記試験80% 授業態度10% 授業意欲10% 評価の基準:授業内容を理解しその知識を扱った問題に回答できる。					
フィードバックの方法	授業中に随時質問に対する回答や技術に対するアドバイス					
時間外の学習について	予習:スポーツや健康問題に対して興味や関心を持つ(各回10分) 復習:現場で役立つように救急法の復習をする(各回80分)					
教材にかかわる情報	参考書:日本赤十字社「看護と救急辞典」講談社 豊田博他2名「スポーツルール百科」大修館 参考資料:「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	スポーツが好きになり、健康・安全に興味を持ってほしい。					